

人がつながる田園都市「広報あきたかた」 AKITAKATA

2020 JUN

安芸高田

6

Vol.196

これからの
安芸高田市のこと
私たちの
暮らしのこと

児玉浩新市長に 聞きました



神ノ倉山公園



火神山城跡の遠望
(南の川井側から撮影)

- 標高……610m
- 比高……350m(川井側から)
- 所要時間…北側の古道から40分



周辺位置図(国土地理院地図に加筆)

安芸高田 歴史紀行

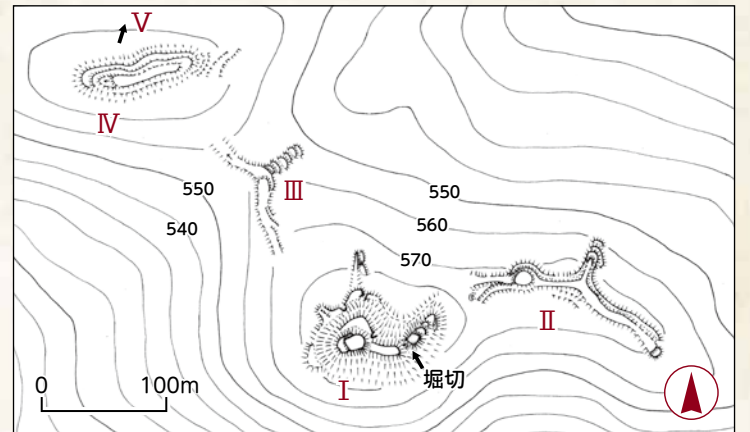
シリーズ「お城拝見!」第86回
ひかみやま
火神山城跡
《美土里町本郷、北広島町川井》

安芸高田市教育委員会
文化財係主査
秋本 哲治

市内最高所の山城

立地
かつては高田郡と山県郡の郡境で、現在は北広島町との市町境の尾根上にあります。川井側からの比高は350mにおよびますが、美土里町の亀谷側からは150mです。集落から離れた山頂にあり、山頂からは北広島町側の眺望が開けています。
また、現在は南麓に塩瀬トンネルが通る県道がありますが、かつては城跡北側に残る亀谷と川東をつなぐ山越えの古道も使われていました。険しい山上にありながら、川東と川井からのルートを押さえる交通の要所であったといえます。

現在確認できている中で、市内で最も標高が高い山城がここです。中国道を見下ろす高所で眺望が良いことから、郡山城と吉川氏の日山城をつなぐ毛利氏の「のろし台」と伝わります。しかし実際はどうか、今回はこの城跡を現地調査し紹介します。



火神山城跡略測図(作図:秋本哲治)

歴史
18世紀初頭の地誌『高田郡村々覚書』に、「ひかみ之古城山」として記録があり、大正期の『高田郡誌』に「進藤李之允」の城とありますが、詳細は不明です。また、南北朝期には南朝方の日野氏、戦国期は毛利家臣二宮就辰の城だったとの伝承もあります。なお、川井には二宮氏の館跡が伝わっています。



整地されたIの山頂(西側から撮影)

遺構
東西500m、南北400mの大きな範囲に、I~Vの5か所に遺構群を確認しました。このうち中心は山頂部のIで、人工的な平坦地や斜面、さらに堀切が明瞭に残ります。また、山頂にはのろし台を思わせる遺構は特になく、後世の推測かもしれません。一方でII~Vは人工的な地形の痕跡ではあるものの、全体的に整地が粗く、拡張されたものか一時的な使用であった可能性があります。現時点では、史料や遺構から毛利氏ののろし台説を裏付ける証拠は、ありません。